

更生 刻々

第27号

令和6年11月6日発行

法務省東京矯正管区更生支援企画課

☎048-600-1560 (直通)

1.toukyoukyousei.i7u@i.moj.go.jp

ホームページ

http://www.moj.go.jp/kyousei1/kyousei08_00101.html

見て！
買って！
食べて！

矯正施設ってどんなところ？

東京都昭島市 **第4回昭島矯正展** ～大盛況！ご来場ありがとうございました～

9月29日（日）、東京都昭島市に所在する矯正研修所を会場として、東京矯正管区主催第4回昭島矯正展が開催されました。昨年度の来場者を大きく上回り、約3,600の方が来場されました。

昭島市臼井市長を始め、多数の御来賓の方々によるオープニングのテープカットを皮切りに、特別機動警備隊の訓練実演を始めた野外ステージイベントでは、矯正支援官である音楽ユニット「Paix²（ペペ）」によるミニコンサートのほか、地域住民によるステージで盛り上がりました。矯正展ならではの施設見学も多くの方に体験していただくことができ、大盛況のまま閉会となりました。

11月23日～24日には、東京国際フォーラムで第64回全国矯正展が開催されます。全国の刑務所作業製品が集まる最大規模の矯正展です。ぜひご来場ください。

非常日がいっぱい！ワクワクの2日間

全国第64回 矯正展

全国刑務所作業製品展示即売会

再犯防止を支える人たち
～職業訓練と就労支援～

入場無料

2024年 11/23(土) 10:00～17:00 11/24(日) 9:30～15:00

会場 東京国際フォーラムホールE
(東京都千代田区丸の内三丁目5-1)

楽しいステージイベント
11/23(土) 11/24(日)

会場ブース
11/23(土) 11/24(日)

第4回昭島矯正展実行委員会
昭島市 臼井市長 代表 臼井 雅之
東京矯正管区 代表 佐藤 孝一
昭島市 代表 臼井 雅之
昭島市 代表 臼井 雅之

【主催】法務省「社会復帰に関する施策」中央推進委員会、（公財）矯正協会



矯正支援官でもある
音楽ユニット
「Paix² (ペペ)」
さんにも書いていただ
きました！



社会復帰を願い、総数400枚

思いが「見える」👁👁

モザイクアート

昭島矯正展では、当課もメッセージアートの作品
製作を出展しました。

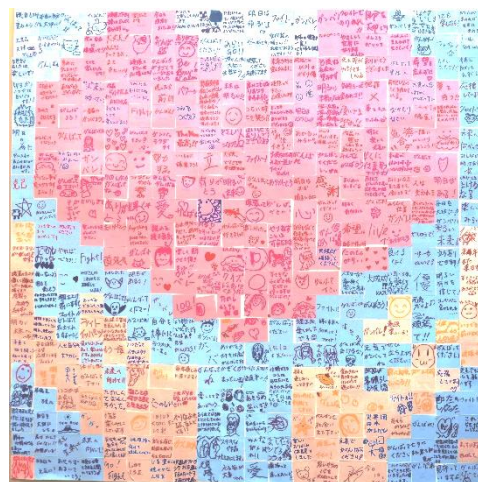
「受刑者・在院者に向けて」をテーマに一言メッ
セージを書いてもらい、そのメッセージで一つの作品
を作るというものです。

老若男女かわらず、多くの方にメッセージを書い
ていただき、来場された皆さんの思いが詰まった温か
い作品を作ることができました。

できあがった作品については、東京矯正管内の
矯正施設に届けて、受刑者・在院者に見てもらえ
るようにしたいと考えています。



少し難しいテーマでしたが、子どもたちも
一生懸命書いてくれました！



『立ち直りの「思い」を受け止める』
更生支援をイメージしたイラストです

支援の在り方はそれぞれ 取組紹介を通じて深まる相互理解

令和6年度第3回再犯防止・更生支援セミナー

9月11日、東京矯正管区にて、関東更生支援ネットワーク主催の令和6年度第3回再犯防止・更生支援セミナーを開催しました。今回のセミナーはオンラインだけでなく、現地参加も募集して、会員同士の交流の機会としていただきました。

そんな今回のテーマは、「私の支援、あなたにつながりますか？」として、犯罪や非行をした人が刑事司法手続から社会へ戻っていく

過程に、様々な形で関わり支援されている3名のパネリストの方から実践報告をしていただいた後、東洋学園大学特任教授宮園久栄氏をコーディネーターにお迎えして、パネルディスカッションを行いました。

支援する側と支援される側だけでなく、支援する側同士が手を取り合うことで何か新しい支援の在り方につながっていくのではないかな、そんな期待が見えたセミナーとなりました。



質疑応答ではパネリスト側から「逆質問」が！
会員同士、フラットに和やかに質問し合いました◎

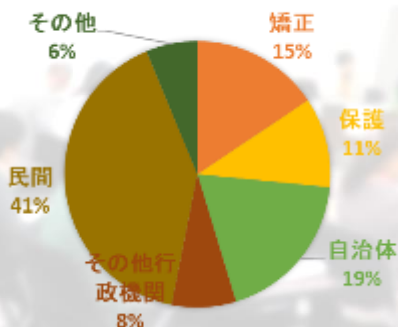
対面の良さはやはり
直接お話できること！
閉会後も多くの参加者が
残って交流されていました♪



参加者の声

▼基礎自治体であり接点のない団体の方々のお話を聞けてとても良かった▼更生支援や再犯防止は独力で情報収集することが難しいので今後も参加したい▼更生支援は正解がないので、いろいろな対象者の事例や対処の仕方を聞くことが更生支援力を高めることにつながると思う▼触法者支援の現場の現状を知れて、顔の見えるつながりをもてるので、また参加したい

参加者属性



会員数400名超え！

令和3年6月に発足した関東更生支援ネットワークですが、ついに、会員登録者数が400人を超えました！

団体としての登録も受け付けております。詳しくは[HP](#)をご覧ください。

支援者の
声



社会福祉法人安立園
安立園養護老人ホーム
関口 陽子氏

令和五年度、当課では、出所者や出院者の受け皿となり得る事業者向けに再犯防止推進パンフレットを制作しました。パンフレットでは、四名の方へのインタビューを掲載しています。取材中、限られた時間いっぱいにお話をうかがったのですが、ページの都合上、お話のすべてを掲載することができませんでした。そこで、更生刻々でこぼれ話をご紹介します。

最終回となる今回は、東京都にある社会福祉法人安立園安立園養護老人ホームの関口陽子氏へのインタビューからです。

何か一つでも自分の役割を持って、自分がここにいてもいいんだと思える、そんな居場所があれば、人は安心して生きていくことができるのではないでしょう。生き辛さを抱えながらも生きていく人たちを最後まで見守る安立園での利用者の方との関わり方について、お話をしていたきました。

-
-
-

何回も累犯してしまつて人生のほとんど刑務所にいらつしやる方つているんですけど、触法者じゃなくても地域の中にも社会的な課題を抱えている方つていらつしやると思うんですよね。地域の課題となつているような、お家をゴミ屋敷にしてしまう方とか、近隣の方とコミュニケーションが取れなくてトラブルになつて家を出されちゃう方とか。そういう方が混在しているのが養護老人ホームですね。施設の中で守られながら、その人の個性としてみなして落ち着けるように



事業者向けパンフレット
更生支援
～誰一人取り残さない社会へ～

対応していくんです。やっぱり穏やかになれば、本人も話を聞いてもらえて満足度が上がるので、居心地が良くなって、生活が安定する。そんなサイクルが安立園ではできているのかなと思います。

安立園はお墓を持っているので、一緒に生活していた仲間のお別れに立ち会うことがあります。最後骨を拾ってもらえる安心感だったり、入れるお墓があつて仲間に見送ってもらえる、安心できるものが最後まで見えているの、うとじゃあそれまでの間楽しんでみよという気持ちに変わっていくんですよ。最初はこんなところでこんな奴らと同じ墓になんか入らないとかおつしやるんですけど、生活の中でどこか居心地の良さを感じるようになって、一年くらい経つと気持ちが変わってくるんですよ。「田舎に帰るって言うていたけどどうする？」って聞くと「安立園かな。」「安立園のお墓に入りたい。」「みんなに見送ってもらいたい。」って言うってくれるんです。

「安心立命」の理念につながると、
 ともありませんが、ここの生活で、
 楽しみや、自分なりに何かこの中で
 できることを見つけて役割を持って、
 最後まで全うしていただけるように生
 活を整えることができたと思います。

もっと知りたい 第二次再犯防止推進計画

重点課題 (Ⅵ) <④-2 犯罪をした者等の特性に応じた効果的な指導>

前回、矯正施設において、適時の段階で必要なアセスメントを実施することにより、特性を把握し、効果的な指導等の実施を図っていることをお伝えしましたが、もちろんアセスメントだけでは、情報の把握に留まりますので、その情報に応じた矯正処遇・矯正教育を実施していく必要があります。

これまでも、刑務所では受刑者で薬物依存、暴力団員、性犯罪等特定の事情を有する者に対して、その事情の改善に資するよう特別改善指導を実施してきましたが、これら指導その他働き掛けの充実化を図っていくこととなります。また、少年院においても、性非行の防止にかかる指導の一層の充実化を図っていきます。

おおむね26歳未満の若年受刑者については、その可塑性に着目して、少年院における矯正教育の手法やノウハウ、その建物・設備等を活用しながら、少年・若年者の特性に応じたきめ細やかな指導等の充実化を図っています。これについては、昨年度10月、千葉県少年院「市原学園」を転用した全国初となる刑事施設「市原青年矯正センター」が開設されました。

また、犯罪をした者等が社会復帰する上で、自らが犯した罪等の責任を自覚し、犯罪被害者等の置かれた状況や心情等を理解することが不可欠であることを踏まえ、被害者の視点を取り入れた教育や、昨年12月から新設された「被害者等の心情等の聴取・伝達制度」により、被害者等の心情等を考慮した矯正処遇・矯正教育の充実化を図っていくこととなっています。